～薬物乱用防止教室実施　身近な薬にも危険は潜んでいる～

今年度の「薬物乱用防止教室」は、北海道医療大学の中山　章先生を講師として１～３年生の 16 名を対象として実施しました。校長先生から講師の先生のご紹介があり、その後「薬物の危険性と薬の正しい使い方」という演題でご講演いただきました。

「薬物乱用」というと覚醒剤や大麻、危険ドラッグなどが、まず連想されますが、中山先生は、最初に私たちが良く目にしたり、実際に服用したりする「薬」の説明からお話しになりました。処方箋が必要な「医療用医薬品」と薬局等から簡単に手に入れることができる「一般医薬品」の違い、スイッチＯＴＣと呼ばれる分類が変わった医薬品等の説明をしていただきました。また、私たちが身近に感じている「薬」で、同じ痛み止めの作用が期待できるものでも、症状の違うものを服用することで逆作用を起こしてしまい、実際に亡くなってしまっているということを知り、生徒たちも大変驚いた様子でした。さらに、インターネットの普及により店舗に行くことなく「薬」を購入できるようになり、便利になった反面、日本語で説明されているインターネット上の薬局が実は外国のものであり、成分のわからない「薬」が販売されているという事実があるということも教えていただきました。

その後、「医薬用大麻」という一時期マスコミを騒がせた報道の実態や「危険ドラッグ」「脱法ハーブ」「合成麻薬」といったことについてもお話しいただきました。それらの成分についても何が含まれていて、私たちの身体にどのような悪影響を及ぼすのかもわからないということも知ることができました。もともと、身体に悪影響を及ぼすものが、さらに大きな危険性を含んでいるという事実は大変衝撃的なものでした。これらの違法なものだけでなく、「アルコール」や「煙草」が身体に及ぼす悪影響も知ることができ、大変ためになるご講演でした。



講演終了後、生徒会長の西村さんからお礼の言葉と「薬物乱用防止宣言」が読み上げられ、中山先生に宣言書が渡されました。今回の講話の内容は、生徒たちの今後の生活に生かされていくものと思います。

大変お忙しいなか、遅い時間にもかかわらずご講演いただいた中山先生本当にありがとうございました。